

社団法人 三原青年会議所新聞



1999年11月20日

発行/(社)三原青年会議所  
編集/広報委員会  
三原市皆実4丁目8番1号  
(三原商工会議所内)  
TEL(0848)63-3515  
FAX(0848)62-1141  
インターネットアドレス  
http://www.tako.ne.jp/~mjc/  
メールアドレス mjc@tako.ne.jp

'99三原JCスローガン

壁を破れ!

できないのではなく、  
やらないだけ。  
やる気があれば  
いつか必ずできる!

今月号の記事

- 1面 やっさ踊り提言書 提出
- 2面 市民の声を行政に
- 3面 ペットボトル/グリコンガイド
- 4面 第25回三原やっさ祭り実行委員長決まる / めざせ広域交流/地方分権セミナー/研修セミナー/新入会員募集 他

みたか  
きいたか



来年、西暦2000年でやっさ祭りも四半世紀を迎える。総会で決算が無事承認され、来年の第25回やっさ祭り実行委員長がきまったこの時期に、「やっさ踊りに関する提言書」がやっさ祭り振興協議会勝村篤博会長に提出された。その中で、「踊りチーム数の伸び悩み、特に町内会、子ども会といった地域コミュニティからの参加チームの減少が、わがまちの伝統芸能であり祭りの資源である三原やっさ踊りの衰退を示している。」とある。少子化・核家族化等さまざまな要因がその理由として考えられるが、一番の原因は、今の子どもたちにやっさ踊りをわがまち「みはら」の文化として積極的に継承してゆく場がなくなっていることであろう。私が幼い頃、近所のおっちゃん太鼓をたたき、おばちゃん三味線を弾き近所の空き地でやっさ踊りを練習していた記憶がある。社会状況が変わった今、こういった場を取り戻すことはたやすいことではないが、しかし、このような時代だからこそ必要ではないのだろうか。今年のやっさ祭りが終わって、子ども会チームで踊った小学生から一通の葉書が送られてきた。「大変楽しかったです。来年もがんばって踊ります。ありがとうございます。」と。来年もこのような子どもたちがたくさん踊っている姿を見たいものだ。

# 新時代の鼓動



21世紀へ発信

## 「やっさ踊りに関する提言書」を提出。

去る11月4日、(社)三原青年会議所は、三原やっさ祭り振興協議会会長である勝村篤博三原商工会議所会頭に「三原やっさ踊りに関する提言書」を提出し、「三原やっさ踊り」の振興に対し提言を行いました。これは、私たち(社)三原青年会議所が、長年「三原やっさ祭り」に携わる中で、このままでは「三原やっさ祭り」が、そしていずれは「三原やっさ踊り」までもがすたれてしまうのではという危機感を抱き、本年当組織内に「やっさ祭り検討会議」を設置し検討を続けてきた中で生まれてきたものです。以下にそれを掲載(一部抜粋)いたします。この提言に関して皆様のご意見をお待ちしております。



勝村篤博会長に提言書を提出



記者会見



やっさ踊りに関する提言書

### はじめに

「三原やっさ踊り」という伝統芸能を資源に、わがまち「みはら」を活性化しようとして始められた「三原やっさ祭り」も24回を数えました。

しかしながら、踊りチーム数の沈滞、特に町内会、子ども会といった地域コミュニティからの参加チームの減少は、わがまちの伝統芸能であり、祭りの資源でもある「三原やっさ踊り」自体の衰退を示していると考えられます。

まもなく訪れるであろう地域間競争の時代を生き残るために、市民意識を支える「誇り」の共有や市民としての「アイデンティティ」の確立は必須課題です。三原市民の固有の財産である「やっさ踊り」がその一翼を担うものと考えます。そこで、いま一度これらの意義を見つめ直し、その継承と発展に全市をあげて取り組むことが急務であると考え、以下の提言をおこなうことといたしました。

### I. 三原やっさ踊りの継承

- ① 三原やっさ踊り普及専門員の設置  
中長期戦略や短期の戦術をたて、「三原やっさ踊り」の普及を計画的に実行します。
- ② 三原やっさ踊り技術専門員の育成  
「三原やっさ踊り」を三原市の認定技術とし、習得カリキュラムと認定試験によって権威を持たせることにより推進します。
- ③ 三原市のアイデンティティとしての取り組み  
三原市の公式文化としての位置づけを明確にし、市の公式行事においていかなる形ででも常に取り上げることで、対内的にも対外的にも三原市のアイデンティティとしてアピールしてゆくことが必要でしょう。

「三原やっさ踊り」は、「みはら」の全ての子どもたちに継承が行われることが必要です。従来この役割は町内会=子供会が主として担ってまいりましたが、現在では一部を除いてその役割を果たす力がないという状況にあります。子どもたちの生活環境の多様化という現在の状況を考えれば、その機会が学校教育という義務教育の場でもたれるのが最適なのではないでしょうか。しかも、学校教育で「三原やっさ踊り」を学ぶということは単なる伝統文化の継承を子どもたちや地域コミュニティの一員としての学校を作ることに寄与すると考えられます。これは、現在の学校教育が抱える大きな問題に対し、「開かれた学校」という一つの解決方法の糸口となる可能性が高いのではないのでしょうか。

### II. 三原やっさ踊り会館

- ① 三原やっさ踊り会館の設立  
「三原やっさ祭り」の3日間以外でも、踊りにふれられ、祭りを疑似体験できることが必要でしょう。常設の講座や機関を運営するためや、それらを統括する事務局を常駐させるために、「やっさ踊り会館」の設立が必要でしょう。
- ② やっさ踊り会館の機能
  - (1) 三原やっさ踊り振興事務局
  - (2) 三原やっさ踊り普及専門員の育成・運営
  - (3) 三原やっさ踊り技術専門員の育成・運営
  - (4) 三原やっさ踊りシアター
  - (5) 三原やっさ踊り博物館
  - (6) 三原やっさ踊りスクール
  - (7) 三原やっさ踊り「連」交流センター
  - (8) 「三原やっさ踊り」「三原やっさ祭り」関連商品の斡旋、販売及び貸し出し
  - (9) 三原やっさ踊り備品倉庫

### おわりに

私たち(社)三原青年会議所は、「三原やっさ踊り」を再びまちづくりの資源とするために、ここにその復興に向け各種の提言を行いました。わがまち「みはら」にかかわる全ての人たち、行政、企業、各種団体、そして市民がこの提言を受け入れ、ともにその実現に向かい努力を重ねていただけることを大切に願うしだいです。

本紙『やっさもっさ』は、1月から11月まで毎月1回3万2千部発行し、新聞折り込みを中心に配布しております。何卒ご愛読ください。

やっさもっさは資源保護のため再生紙を利用しています。